

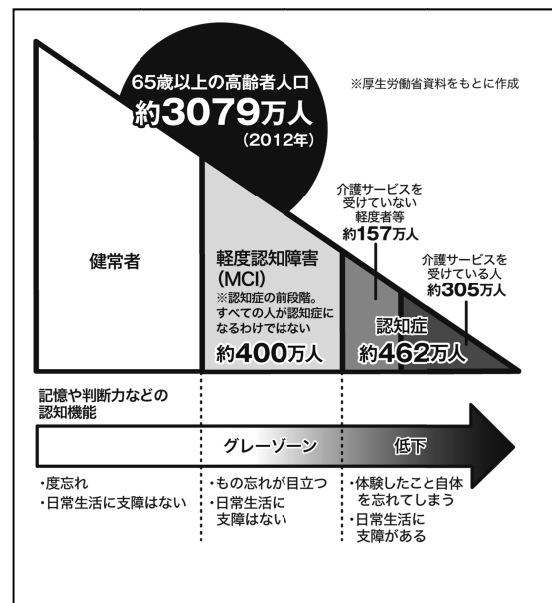
【薬いらずで認知症は防げる、治せる！】

サブタイトル 認知症医療で後悔しない3つの方法 の発売

本書は認知症の1300万人時代の到来を迎え認知症治療の現在と「治せる認知症」の最前線を、著者 佐藤俊彦+長谷川 亨によって分かりやすく事例を交え解説がなされています。

本書では新発見の認知症キーワードとして「ホモシステイン酸」に着目。その発見者である長谷川名誉教授がアルツハイマー病の根本治療が可能となったメカニズムについて詳しく解説をしています。

2017年2月10日から株式会社イースト・プレスから発売されました。



■「ホモシステイン酸」の減少によって認知症は治せる時代に！

長谷川先生(*1)はアルツハイマー病の真因は「ホモシステイン酸」というアミノ酸であることを証明しました。(*2) この「ホモシステイン酸」の抑制、つまりは体内から減らすことが根本治療につながると考えられます。以下。

アルツハイマー病の原因は「ホモシステイン酸」というアミノ酸で、認知機能の低下は、血液中のホモシステイン酸が引き起こしている。

ストレスはアルツハイマー病の大きな要因

ストレスはホモシステイン酸の大好物

ホモシステイン酸の有害な働き

ホモシステイン酸には緑茶が効く？食で防げる、治せる、認知症

■間違いだらけだった「アミロイド仮説」

1. これまでのアルツハイマー病研究は、アミロイド仮説と呼ばれるものが前提となって研究がおこなわれています。

(アミロイド仮説とは)

アミロイド β の蓄積（老人斑の形成）



神経機能の異常



神経細胞内にタウが蓄積



神経細胞が死滅

しかし、近年アメリカ大手製薬会社から「アミロイド療法で認知機能の回復は実現できなかった」という敗北宣言ともとれる報告があり、さらに老人斑が健常者の脳にも見出されたことにより研究は振り出しに戻ったのです。(*3)

■ 認知症医療で後悔しない3つの方法 早期発見のカギは「画像診断」

アミロイド療法が治療に向かないとわかったいま、むしろ認知症になる前、軽度認知障害（通称 MCI）へのアプローチが非常に重要になってきます。しかし、問題なのは現在の医療機関で早期発見ができないという事実です。その中に物忘れ外来、認知症外来、高齢者専門と銘打った医療機関も含まれます。そこで、認知症の早期発見に有効な手段として画像診断（PET）がカギとなります。すでにアメリカではメモリークリニックとして確立しており、日本での受診と検査方法など事例を交え、佐藤医師(*4)がわかりやすく解説をしています。

■ 本書

薬いらずで認知症は防げる、治せる！

認知症医療で後悔しない3つの方法

2017年2月10日 第1刷発行

著者 佐藤俊彦+長谷川 亨

発行所 株式会社イースト・プレス

(*1) 長谷川 亨（はせがわ・とおる） 1945 年、福島県生まれ。1972 年、東北大学大学院薬学修士課程を 修了後、岡山大学医学部で医学博士号を取得。1981 年 4 月佐賀医 科大学（現佐賀大学医学部）助教授、2000 年 4 月佐賀女子短期大学 人間生活学科教授に就任。2010 年 1 月、カリフォルニア大学との共同 研究によりアルツハイマー病の一因とされるホモシステイン酸のマウスに おける抑制ワクチンの開発に成功したとの論文を発表。2017 年現在、 佐賀女子短期大学名誉教授。MRD 株式会社代表取締役。

(*2) International Journal of Clinical Research&trials Open Label Clinical Trial of Hydrogen Brain Food for 91 Alzheimer's Patients(Targeting Therapy for Homocysteic Acid in Blood is an Alzheimer's Cognitive Recovery)

Open Label Clinical Trial of Hydrogen Brain Food for 91 Alzheimer's Patients (Targeting Therapy for Homocysteic Acid in Blood is an Alzheimer's Cognitive Recovery)

Tohru Hasegawa¹ and Yasubumi Uchida²

¹Saga Woman Junior College, Saga 849-8440, Japan

²Saga Memorial Hospital, Takagise, 849-0917, Saga, Japan

(*3)2016 年 11 月、アメリカの某大手製薬会社が、開発中のアルツハイマーの治療薬”ソラネツブ”に、有意な進行抑制がなかったとする臨床結果を発表しました。これまで認知症はアミロイドβという異常タンパクによる神経細胞の脱落という俗称”アミロイド仮説”が学説の常識でした。この治療薬の開発の失敗は、アルツハイマーが治らないのはもちろん、医師や研究者たちが「アミロイド仮説」を信奉しすぎていた結果とも言えます。近年このアミロイド仮説そのものに疑問が呈されています。

(*4) 佐藤俊彦（さとう・としひこ） 1960 年、福島県生まれ。1985 年、福島県立医科大学卒業後、同大 学放射線科に入局し、日本医科大学第一病院放射線科助手、獨協 医科大学放射線科助手、鷺谷病院副院長を経て、1997 年に宇都宮 セントラルクリニックを開院。2012 年 10 月野口記念インターナショナル画像診断クリニック院長に就任。医療法人 DIC 宇都宮セントラルクリニック 理事、セントラルメディカル倶楽部顧問医、メディカルリサーチ株式 会社顧問、米国財団法人 野口医学研究所常務理事。